

## 書 評 Book Review

### 化学物質による染色体異常アトラス

日本環境変異原学会・哺乳動物試験分科会編  
朝倉書店, 1988年, B5判 198頁, 定価 6,800円

近年, 環境変異原の検出法の一つとして, 染色体異常誘発試験の重要性に対する認識が高まり, 染色体検査法の実技と異常の判定基準などに関する参考書出版の要望が高まってきた. 本書はこのような要望にこたえて出版されたものである.

本書の編集には, わが国におけるこの分野の代表的専門家である石館基 (国立衛生試験所), 乾直道 (日本たばこ産業, 安全性研究所), 菊地康基 (武田薬品工業中央研究所), 祖父尼俊雄 (国立衛生試験所) の4名が責任者となり, 11名の第一線の研究者に染色体異常の写真の提供を依頼して収集された1,000余枚の写真の中から180余枚の写真を選出し集録したものである.

内容は, (I) 総論と (II) 染色体異常アトラスの2部に分かれ, 前者では, 1) 染色体異常の意義 (菊池康基), 2) 染色体異常の生成機構と異常の分類と判定 (祖父尼俊雄), 3) 染色体標本作製法 (乾直道), 4) 染色体異常試験のための統計処理法 (林真), および 5) 変異原性試験法ガイドラインの国内外の動向 (石館基) について, 初心者にもわかりやすいような簡明な解説がなされている. (II) のアトラスは本書のもっとも重要な部分であり, 全頁数の3分の2を占め, 1) 正常核型および標準核型と, 2) 染色体異常よりなり, 材料としてはチャイニーズハムスターの正常および各種株細胞, ヒトの培養リンパ球, マウスの骨髄・胎仔・生殖細胞, ラットの骨髄細胞などが用いられている.

種々の化学物質により誘発される多種多様な染色体異常の顕微鏡写真が集録されており, 複雑な構造異常については異常の形成過程をトレースにより解説している. また, 従来判定基準が不統一であったギャップと切断の区別についても多くの実例を示してあるので, 初心者のみならず一般の研究者にとっても参考になる.

本書はすべて上質のアート紙に印刷されており, 染色体の写真は顕微鏡下に見える像と同様に鮮明に仕上げられている. 装丁もしっかりしており, 写真が多いので定価も程々である.

(北海道大学理学部附属動物染色体研究施設 佐々木本道)